



氏家 純一

副代表幹事

市場主義・民間主導社会のあるべき姿を考える委員会 委員長

野村ホールディングス 取締役会長

我が国経済は戦後最長の景気拡大の過程にあると言われるが、十余年にわたる長期経済停滞を招いた構造的な問題が抜本的に解決されたわけではない。むしろ構造改革は緒に就いたばかりであり、巨額の政府債務残高を抱える中で、人口減少と高齢化の問題が経済・社会に深刻な影響をもたらしかねないことを忘れてはならない。

昨年8月、米国のポールソン財務長官は、就任後初の対外演説の場としてニューヨークを選んだが、その理由として「我が国への挑戦にどう対処するか」の答えは、しばしばワシントンではなくニューヨークで見つかるからだ」と述べた。対峙する難解な諸問題の中には、市場の視点で見れば往々にして解を見いだせるものがあるということだろう。

私はビジネスの現場での常識、即ち市場の視点から、4つの基本姿勢が重要だと考えている。第一に、個の自由な選択を重視すること。中央統制ではなく、参加者の自発的行動を通じて、よりよい状態が生まれることが望ましい。第二に、自由

な競争を尊重すること。競争がなければ選択のしようもない。利用者の選択に晒される中で、生産者が切磋琢磨の競争をすること、それが技術革新や経営革新の源泉であり、技術革新や経営革新が生産性の向上を生み出す。第三に、数量化できるものは極力数量化し、費用対便益分析、リスク・リターン分析等を徹底的に行うこと。長年の経験や勘が支配し、最適化が試みられていない分野はないか。第四に、情報開示を徹底し、情報の透明性とその利用可能性を積極的に向上させること。利用者が自由にかつ合理的な選択をできるためにも、情報が利用できなくてはならない。

当委員会のヒアリングの中で、「日本の非製造業、サービス業の生産性の低さは問題で、医療等の分野でも市場のパフォーマンスを活用する必要があるのに遅々として進んでいない」という指摘があった。従来、民に任せたり、市場メカニズムを適用したりするのはふさわしくないと考えられていたような分野でも、市場の視点から新たな光を当ててみる余地がまだまだあるのではないだろうか。

Contents

巻頭言 氏家純一	市場の視点	001
2007年 年頭見解	豊かな成熟社会を次世代に引き継ぐための決断を	002
新年祝賀パーティー・合同記者会見	北城代表幹事 スピーチ、合同記者会見での発言要旨	004
リレートーク 奥村晃三	イデロー会……日韓交友……	008
お知らせ	2007年度 新代表幹事・副代表幹事 推薦候補者の内定	009
委員長インタビュー	中国委員会 勝俣宣夫 米州委員会 大林剛郎	011
経済同友会最前線	中国委員会 訪中ミッション 他	013
同友会スケッチ	2006年11・12月の記録と2007年2月の予定	023
新入会員紹介	2006年12月15日現在の入退会者	025
私の思い出写真館 茂木友三郎	ウイスコンシンとの橋渡し	026